

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報

1 基本情報		事業番号	0010/100545/03/01		事業の種類		4	
年度	19	事務事業名	国際交流事業		作成日	平成21年1月20日	重要度	3
予算事業名		国際交流事業・(企画広報課一般事務経費)		担当部課名	企画広報課			
政策名		愛着と生きがいを育むまちづくり						
施策名		国際交流		実施計画への記載	無	主要事業の指定	無	
根拠法規及び関連法規								
事業の目的	誰のために(具体的に)	外国籍市民を含めたすべての市民						
	誰(何)を対象として	外国籍市民を含めたすべての市民						
	意図(どのような状態にしたいのか)	市民が国際化の意識を高めるとともに、外国人が安心して暮らせるようにする。						

2 事業の概要 Do

実施の概要		・相生市国際交流協会委託事業				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	国際理解講演会	人	40	49	40	50
	食文化交流会	人	50	47	47	50
	定例会	人	80	121	112	130

3 投入資源

3 投入資源		会計区分	一般会計			事業費単位:円			
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員	0.160	0.160	100.0	0.152	95.0	0.150	98.7	
	臨時職員			-		-		-	
支出内 訳	人件費	2,378,768	2,089,314	87.8	2,062,137	98.7	1,989,372	96.5	
	事業費	408,460	408,460	100.0	430,000	105.3	300,000	69.8	
	合計	2,787,228	2,497,774	89.6	2,492,137	99.8	2,289,372	91.9	
財源内 訳	国庫支出金			-		-		-	
	県支出金			-		-		-	
	市債			-		-		-	
	その他	400,000	400,000	100.0	400,000	100.0	300,000	75.0	
	一般財源	2,387,228	2,097,774	87.9	2,092,137	99.7	1,989,372	95.1	
	合計	2,787,228	2,497,774	89.6	2,492,137	99.8	2,289,372	91.9	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		国際交流協会事業							
指標説明(式)		事業数							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
事業	目標	3	3	100.0	3	100.0	3	100.0	
	実績	3	3	100.0	3	100.0			
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	目標			-		-		-	
	実績			-		-		-	

【効率性】

指標名1		事業参加者一人当たりコスト							
指標説明(式)		国際交流協会委託料÷協会事業参加者							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績	2,353	1,843	78.3	2,010	109.1	1,304	64.9	
指標名2									
指標説明(式)									
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-		-		-	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	国際交流協会の主催する事業の参加者はリピーターが増加し、国際化意識の向上が図られてきている。また、EU協会については、直接的な事業に関連した事業でないため脱退について申し入れを行いH20から脱退する。	4	4
	市の関与の妥当性	国際交流協会は個人ボランティアなどの幅広い市民による活動を行っている。参画と協働のまちづくりを推進するためにも、支援する必要がある。		
有効性	成果目標(改善)達成度	年度当初の事業は達成できた。	3	3
	市民サービス	定例会を毎月1回開催する事により、互いの文化交流が図られた。		
効率性	コストの節減	事業参加者数の減少により参加者1人当たりコストは増加した。	3	3
	手段の最適性	国際交流協会を主体として、市との連携により事業を推進することが、現時点では市民の国際理解の増進に最適な手段である。		

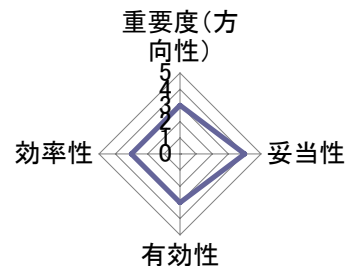
6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	国際交流事業は、計画に沿って着実に成果を上げているが、今後、多くの新たな市民が参加したくなるような事業を実施し、幅広い市民参加ができるようにする必要がある。

7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
有効性	市民サービス	広報紙に掲載してボランティアを募集し、広く市民に開かれた国際交流事業を行う
H19→H20予算反映額		△100千円



(2) 20年度の実施方針

少しでも多くの外国人の参加者を募り、広く市民に開かれた交流の場をつくる。

検討の有無	—
総合指標	18